



駅無人化反対宣伝行動

駅の無人化やローカル線廃止に反対

公共交通の使命を投げ捨てたものである


地方本部は、10月29日に駅無人化反対宣伝行動を展開した。10時より、支部行動として第一支部は新倉敷駅前・第三支部は笠岡駅前で行い、そして、午後からは地本行動を倉敷駅前でマイク宣伝とチラシ配布、スタンディング行動で利用者・住民に訴えた。参加人数は20名です。



倉敷駅南口

支社は、「駅体制の見直し」として、笠岡駅・新倉敷駅・倉敷駅にみどりの券売機プラスを導入して、沿線自治体の利用促進に向けた努力に背を向ける岡山支社の施策は、公共交通の使命を投げ捨てたものである。私たちは見直しを求め


駅の無人化は、利用者の利便性の低下になる
鉄道の利便性・安全のため、駅の無人化施策に反対しよう！



笠岡駅

駅のあり方について岡山支社は、より多くのお客様に快適にご利用いただくために、非対面化の推進と利便性向上、および効率的な駅運営を目的に、2018年に窓口閉鎖した笠岡駅などに続き、2022年11月に笠岡駅に「みどりの券売機プラス」を導入し、「みどりの窓口」が閉鎖になります。10月に新倉敷駅に「みどりの券売機プラス」を導入し、11時から15時30分まで「みどりの窓口」が閉鎖になりました。そして、10月に倉敷駅に「みどりの券売機プラス」を導入し、「みどりの窓口」が1つとなりました。

今後もJR西日本は、駅の窓口閉鎖を続けていく考えを示しています。私たちは、駅の無人化により利用者の利便性の低下を招き、公共交通の役割が果たせなくなると考えています。



そして、JR西日本は10月に中国地方の岡山支社・広島支社・米子支社を組織統合し、広島市に設ける「中国統括本部」に統合しました。鉄道の利便性の低下、地元の見解が聞きにくくなり、地域からも拠点機能の「縮小」がもたらす影響を不安視する声も上がっています。

私たちは、将来の高齢化社会において、公共交通はますます重要性を増すことになっていきます。利用者の利便性・安全のため、列車減便・駅の無人化施策について私たちは反対していきます。



新倉敷駅

て、笠岡駅・新倉敷駅・倉敷駅周辺で、マイク宣伝・チラシ配布・スタンディング行動を実施した。

倉敷駅前では、天野委員長が、「私たち国労は駅の無人化、駅社員の削減反対に向けた宣伝行動を展開し



笠岡駅

ています。今回、笠岡駅・新倉敷駅・倉敷駅に『みどりの券売機プラス』を導入し笠岡駅を無人化、新倉敷駅・倉敷駅の『みどりの窓口』を縮小しています。

私たちは、駅体制の変更に対して、公共交通機関としての柱である『サービスと安全』を軽視するものであるとして、反対の声を上げていきます。駅の無人化で困るのは高校生や身体に障害がある方、高齢者の方などの交通弱者と言われる人たちです。駅無人化や窓口閉鎖は、バリアフリー新法や障害者基本法の趣旨・精神にも反するものです。

JR西日本は、運転短縮や列車の減便も行いました。沿線自治体から『まちづくりに悪影響が出る』『地元

高校の志望者が減る』などが訴えられ、便数の早急な復元を求める要望が出されていますが、JR岡山支社は『直ちに復元するのは困難』であると冷たく回答しているのが現状です。

さらにJR西日本は、ローカル線のあり方を見直していくことを明らかにしています。見直すということは『儲からないところには列車は走らせない』といった利益最優先の立場に立ちながら、ローカル線を切り捨てていく方向です。

私たちは、『安全とサービス』の低下につながり、利用者や交通弱者を無視した駅の無人化やローカル線廃止に反対し、安心・安全に利用できるJRにしたい。と訴えた。

なお、笠岡駅前で、三宅副委員長・青山書記長・片岡執行委員、新倉敷駅前では、天野委員長・倉敷駅前では、天野委員長・三宅副委員長・青山書記長・藤江第三支部書記長がマイク宣伝を行い、利用者・住民に反対して、駅の無人化・ローカル線廃止反対を訴えた。